

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン(西ユニット)		
所在地	岐阜県大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	令和 5年11月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 4 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jlgvsvocd=2192100184-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の1人1人の尊厳を守り、心に寄り添えるケアが出来る様、日々心がけています。また、認知症の周辺症状がみられる場合、ご本人の不安感に配慮し、出来る限り穏やかな気持ちで生活できるよう、気持ちに寄り添った支援に努めております。また、利用者様、スタッフ共に毎日笑顔がたえない空間となるよう、良好な関係作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、田畑が広がる自然豊かな環境に位置している。敷地内にはネギや法蓮草等、様々な野菜を育てる畑があり、利用者と共に収穫する等して、自然の恵みを享受している。玄関を入ると、利用者に笑顔で迎えて入れてもらい、アットホームで和やかな雰囲気を感じられた。屋内は陽当たりが良く、利用者がそこかしこで、思い思いに過ごしていて、利用者の主体性を尊重したケアが実践されている。利用者のニーズ・オリエンテッドな観点から、管理者は常に現場に身を置き、利用者一人ひとりの意向を丁寧に聞き取り、それぞれの生活スタイルに合ったQOLを高めた暮らしの実現に向けて取り組んでいる。また、法人代表者や管理者は日常的な業務の中で、職員の様々な意見や相談に応じて、働きやすい職場環境づくりに努めている。職員の仕事のモチベーションが高く、集団としてのチームワークができており、利用者へのより良いケアの提供につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い決定した理念に基づき、気持ちを一つに日々のケアに努めている。ユニット内にも理念を掲示し、利用者様と職員の間でも、理念について語ることがある。	「想い合い、認め合い、支え合い」の理念は利用者支援だけではなく、職員の間においても仕事をする上で大切なキーワードとして職員たちに浸透している。理念は、職員会議等で話し合い、利用者ケアの実践につなげていて、年々、理念に対する職員の理解度が深まってきているとの事である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、町内の行事に参加することが出来ていない。散歩の時間に町内の方にお会いする時は、挨拶を交わしたり様子を尋ねてくださる。町内の方から柿をおすそ分けいただき、皆で干し柿を作らせていただいている。	コロナ禍の影響で地域の行事参加は、できないが、地域の方との挨拶や、野菜や果物のおすそ分けのやり取り等を通じて、地域の方とのつきあいは続けられている。また、当ホームは、認知症についての講演やサロン交流、介護相談の実施等、地域の認知症介護の拠点施設としての役割を担っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、運営推進会議の開催を見合わせ、書面で近況報告を行っていたが、令和5年10月より、対面で少人数での会議を再開。その内容をユニット会議で職員に周知し、サービスの見直しに繋げている。	運営推進会議は、利用者、家族、自治会長や民生委員、地域包括支援センター等が出席して開催し、活動状況の報告や地域行事の案内等について情報交換を行っている。地域との連携関係ができており、様々な意見をいただき、運営に反映させている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向いた際、施設の様子をお伝えするとともに、ご意見を頂き協力関係が築けるよう努めている。	ホームは市担当部署と協力関係を構築しており、福祉制度等について情報提供を得たり、介護保険制度関連の疑問点やホームの運営、困難事例等の相談に助言をもらう等している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体拘束防止委員会で、身体拘束になりうる行為を全職員で共有し、拘束をしないケアに努めている。ユニットの扉や玄関の扉は開放しており、利用者様が自由に出入りできる環境作りに努めている。	日中、玄関の施錠はしていない。ホームは開放的で、利用者はそこかしこで思い思いに過ごしていて、拘束しないケアが実践されている。定期的に開催される委員会では、利用者の安全面の配慮、身体拘束をすることの弊害、言葉遣いや接し方等について利用者の立場で振り返り、検討している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師による、虐待防止についての勉強会を開催。不適切ケアについて確認し、職員の意識付けに役立てることが出来ている。	ホーム内で外部講師を招いて、虐待防止に関する研修会を開催している。利用者の尊厳を尊重したケアの実践について、どうあれば良いのか、について時間をかけて検討している。話し合いの中で、ケアを振り返り、時に具体的な事例をあげ、理解を深めるべく取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、実際の当ホームの事例を通して制度について学ぶ機会を設けた。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せや見学の際に、じっくり時間をかけて説明させて頂き、サービス内容や料金等について理解、納得して頂けるように対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や電話にて、ご家族様のご意見やご要望をお聞き出来る様、努めている。また、利用者聞き取り調査を行い、ご意見を、ケアや運営に反映させる努力をしている。	管理者は、居室や事務室で利用者との定期的な聞き取り調査の面談を実施し、生活での細かな要望を聞き取り、サービスに活かしている。家族とは、面会や電話、LINE等活用して、意向や要望を聞き取り、運営に活かし、サービスへとつなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は適度に施設へ出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や、思いを聞き取りいつでも相談、対応できる環境作りに努めている。また、実際に現場に入り、状況把握に努めている。	代表者や管理者は常にケアの現場に身を置き、日頃から業務を通じて職員から、意見・要望等を聞き取っている。また、管理者は全職員と定期的に面談を実施する等、意見・要望を話し合う機会を持っている。把握した意見は、ホームの運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人の体調に気遣い、無理のない様に勤務体制を整えている。また、昇給や手当てなど、給与水準の整備に努めている。	職員にとって無理のない働き方が第一と考え、きめ細やかな勤務形態を作り、シフトを組んでいる。子育てや病気で休む場合は、SNSを活用して呼びかけを行うことで、職員同士が協力して業務の補完をしている。職員チームの一体感があり、職員皆が協働の意識を高く持っている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を掲示し、参加できる機会を確保している。また、内部研修を開催し、職員のスキルアップを図る機会を確保している。昨年度はから新たに外部講師との顧問契約を締結し、オンライン及び対面での研修受講も実施している。	年間研修計画に基づき、研修を開催している。職員は交替で研修に参加できるように、複数回、実施の機会を設けている。コロナ禍や自宅でも受講可能になるようオンラインでも実施する等、職員の状況に合わせて学べる仕組みを考えている。職員は、目標管理シートで目標を定め、管理者等から指導・助言を受けながら、自己研鑽している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会(オンライン)に参加し、事例検討を通して、他事業所の対応方法などを参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員がテーブルを囲んで、一緒にお茶を飲みながら談話したり、共有できる時間を確保し、生活を共にする大きな家族として良い関係が築けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーションや外出支援の参加時など、行事ごととしてユニット全体で捉えることをせず、今この時間にどう過ごしたいかという本人の思いを大切に、個別な支援に努めている。	利用者との面談や事務室での交流、生活を共にする中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を把握している。利用者一人ひとりの今やりたいことをサポートしているが、言葉にできない人には選択できるように工夫して提案している。利用者によっては、表情や普段の様子から職員が判断し、意向に添うよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議とモニタリングを行い、利用者様の状況とケアのあり方について洗い出し、プラン作成に努めている。ご家族に担当者会議に参加していただける事が少ないが、面会の予定に合わせて会議を開くなどの工夫で担当者会議が開催しやすくなった。その際、状況報告とともにご要望やご意見をお聞きしている。	毎月、ケア共有シートで、状態変化の確認と3か月ごとのモニタリングでADL評価等を行っている。家族の意見や意向については、会議への出席、電話やメール等で把握しており、それを踏まえて、担当者会議を通じてケアプランを作成をしている。定期的に、あるいは状況変化があった場合には随時、計画の見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や職員の気づきを日々ケース記録に記録し、日々の申し送りにより情報の共有に努めている。共有シートに具体的な援助内容を記載し、実践に生かす努力をしている。	記録についてはタブレット端末を活用して記入し、サーバーで共有化する等、ICT化を推進している。加えて、勤務交代時に、申し送りノートで申し送りをしている。毎月、共有シートを介護職員が記載し、ケアマネージャーに渡して、ADL状況や支援結果等について共有を図っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出、買い物、通院など、それぞれ必要な時に、本人やご家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。	受診や買い物、外食等、外出時に家族の対応が難しい場合は、家族に代わり、送迎、同行の支援を行う等、利用者や家族の意向を踏まえて対応している。利用者が気分転換できるよう、ホームにカフェを設け、くつろいだり、相談できる場所を設置している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、ご利用者様に合った資源が活用できるように支援している。また、馴染みの生活が継続できる様、地域や人との関係継続を支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との提携により、訪問診療時や急変時に利用者様の状態を正確に伝え、指示を仰いでいる。また、状態が不安定な場合は、訪問診療時にご家族に立ち会っていただき、主治医の説明を直接受けていただく。他科受診が必要な方の場合も、ネットワークサービスで病院間の連携をとり、情報共有している。	2週間に1回、主治医は訪問診療に来所し、毎週、訪問看護が来所しており、緊急時の連携体制もできている。他科の受診は家族対応となっているが、対応が難しい場合は職員が代行し、前後で報告を行う等、柔軟に対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には、管理者またはリーダーが病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きし、退院後のホームでの生活が安心して送れるよう、情報交換に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を説明し、利用者様やご家族にご理解頂けるよう、説明の時間を十分確保している。看取りを行う段階において、再度詳しい説明を行い、同意を頂いたうえで出来る限りの支援をしている。	入居時に終末期のあり方や看取りに関する指針について、利用者・家族に説明を行っている。状態に変化があった際には、医師の説明とともに、再度、意向確認を行っている。看取りの場合は、できる限り、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。退所後も交流を通じて、関係性が継続している家族もいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者様の急変や事故発生に対し、些細なことでもヒヤリハットとして報告をし、意識向上を図っている。今後も応急手当の方法について勉強会を行い応急手当の実践力を身につけたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、職員会議で非常災害時を想定して役割を確認している。水害時の対策について、早急に避難訓練が必要である。	定期的に、利用者も参加して、避難訓練を行っている。職員会議でも話し合い、流れや役割分担の確認を行っている。非常電源や食糧や水等、備蓄している。水害時の避難訓練は、机上では話し合っているものの、今後、訓練が必要と認識している。	現在も、様々な想定を基に避難訓練を実施しているところであるが、今後とも、水害想定の実施等、さらなる訓練の充実に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人一人の人格を尊重し、職員が視線を合わせ声かけや関わりで穏やかに過ごして頂ける様心がけ、気配りできる様努めている。	利用者の意思決定を大切にして、一方的に支援をするだけでなく、本人が理解しやすいように職員は目を合わせ、ゆっくり話をし、そして、待つ姿勢で対応している。支援する・されるというような固定的な立場を超えて、役割を持ち、主体的な生活をする人として捉え、側面的な支援に心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や居室で過ごされる時など、利用者様が思いを伝えやすい様な雰囲気づくりを心掛けている。起床、就寝時間や食事時間、飲み物の選択、衣類などあらゆる場面で自己決定して頂けるよう声かけをしている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、利用者様本位での生活スタイルであるが、生活のメリハリをつける為に体操やレクリエーションの参加を体調を考慮し促している。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から嗜好を把握し、献立作りに役立っている。また、野菜の収穫、食後の食器洗いや食器拭きなど、役割分担にて個々の力が発揮出来る様促している。	日々の会話から好きな献立や外食メニューを聞き取り、献立に役立っている。また、栽培した野菜を収穫し、献立に取り入れたりしている。食後の下膳や食器洗いや食器拭きについては、利用者それぞれの状況に応じて手伝ってもらっている。栄養改善のために、分割食等を取り入れている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握出来る様努めている。また、食事の摂取にかかる時間は、本人のペースを優先し、必要に応じて主治医に相談しながら調整している。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいをして頂けるよう促している。必要に応じて口腔スポンジで介助させていただき、清潔保持に努めている。また、歯科医の往診で義歯の調整等の対応をして頂いている。	毎食後に歯磨きやうがいをして口腔内の清掃を行い、清潔保持に努めている。拒否される場合には無理強いせず、時間をおいて声かけをする等して支援している。訪問歯科の往診時に、ケア方法の助言を受け、職員間で共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレの声かけをしている。尿意があまりみられない方でも、トイレ誘導により排泄を試している。実際に、リハビリパンツから布パンツに変更できたケースが多い。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や意思を確認し、入浴の促しをしている。リラックスして入浴頂けるよう好みの入浴剤を選んで使用している。曜日や時間帯においては、希望に沿って臨機応変に対応しているため、入浴回数が多い利用者もおられる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活スタイルに合わせ、起床、昼寝、就寝ができる様支援している。昼夜逆転がある方は、日中の活動の見直しを行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報ファイルをユニットに常備し、情報の共有に努めている。また、会議でもお薬の確認を行い職員一人一人がお薬について把握しケアに努めている。服薬に応じた状態の変化は必ず記録し、主治医へお伝えしている。	薬情報は常に最新のものをファイリングしてユニットごとに管理している。本人の嚥下機能を確認し、安全かつ確実に服薬できるかを職員チームで検討し、袋を破り、手渡したり、とろみをつけた飲み水で服薬してもらう等している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に合わせ、食器拭きや掃除など役割を持った支援をしている。「ありがとうございます」「助かります」と感謝の意をお伝えしている。	利用者のできることに目を向けて、食事の準備や後片付け、掃除等、役割が持てるように関わり、支援することを大切にしている。ホームの日課を押し付けるのではなく、自己選択・自己決定ができるよう、側面的な支援に努めている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で外出支援の行き先には限りがあるが、日常的な散歩やテラスでのティータイム、ドライブや道の駅へ外出支援をしている。行先は利用者の希望で決定することが多い。また、野菜作りは、車いすの方も参加できるよう、プランターも使用している。	利用者の希望を聞きながら、定期的買い物や喫茶店に外出している。また、天候の良い日は、近隣に散歩に出かけたり、ホームの畑やテラスで過ごしている。利用者の中には知人の協力を得て、施設入所中の親族の面会に出かけている人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、ご本人の希望や能力に応じて、買い物の時などに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話をされたいと申し出がある時は、職員がダイヤルし直接お話して頂いている。ご家族様からの手紙にお返事を書かれることは難しいが、喜んでおられた様子を電話や面会時にお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごされるリビングには、利用者様の作品を飾り、心地よい空間づくりに努めている。また、お天気の良い日はテラスでティータイムを楽しむなど工夫をしている。	リビングに利用者の作品や写真等が掲示され、季節折々の飾りで空間演出がなされている。事務所内にはカフェコーナーが設けられており、利用者が気分転換する場所を用意している。また、畑があり、一緒に野菜を育て、収穫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の中で、利用者様の関わり合いなどに配慮し、席やソファの配置を考えている。ゆっくりとくつろげる空間づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や思い出の写真などを自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中で過ごして頂けるよう工夫している。また、ご本人の動線の妨げにならない様、家具の高さや配置に配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、利用者様の身体機能に合わせ、個々に合った車椅子やシルバーカーの選択をすることで、安心な生活が出来る様支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン(東ユニット)		
所在地	岐阜県大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	令和 5年11月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 4 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100184-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の1人1人の尊厳を守り、心に寄り添えるケアが出来る様、日々心がけています。また、認知症の周辺症状がみられる場合、ご本人の不安感に配慮し、出来る限り穏やかな気持ちで生活できるよう、気持ちに寄り添った支援に努めております。また、利用者様、スタッフ共に毎日笑顔がたえない空間となるよう、良好な関係作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い決定した理念に基づき、気持ちを一つに日々のケアに努めている。ユニット内にも理念を掲示し、利用者様と職員の間でも、理念について語ることがある。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、町内の行事に参加することが出来ていない。散歩の時間に町内の方にお会いする時は、挨拶を交わしたり様子を尋ねてくださる。町内の方から柿をおすそ分けいただき、皆で干し柿を作らせていただいている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、運営推進会議の開催を見合わせ、書面で近況報告を行っていたが、令和5年10月より、対面で少人数での会議を再開。その内容をユニット会議で職員に周知し、サービスの見直しに繋げている。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向いた際、施設の様子をお伝えするとともに、ご意見を頂き協力関係が築けるよう努めている。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体拘束防止委員会で、身体拘束になりうる行為を全職員で共有し、拘束をしないケアに努めている。ユニットの扉や玄関の扉は開放しており、利用者様が自由に出入りできる環境作りに努めている。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師による、虐待防止についての勉強会を開催。不適切ケアについて確認し、職員の意識付けに役立てることが出来ている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、実際の当ホームの事例を通して制度について学ぶ機会を設けた。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せや見学の際に、じっくり時間をかけて説明させて頂き、サービス内容や料金等について理解、納得して頂けるように対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や電話にて、ご家族様のご意見やご要望をお聞き出来る様、努めている。また、利用者聞き取り調査を行い、ご意見を、ケアや運営に反映させる努力をしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は適度に施設へ出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や、思いを聞き取りいつでも相談、対応できる環境作りに努めている。また、実際に現場に入り、状況把握に努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人の体調に気遣い、無理のない様に勤務体制を整えている。また、昇給や手当など、給与水運の整備に努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を掲示し、参加できる機会を確保している。また、内部研修を開催し、職員のスキルアップを図る機会を確保している。昨年度はから新たに外部講師との顧問契約を締結し、オンライン及び対面での研修受講も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会(オンライン)に参加し、事例検討を通して、他事業所の対応方法などを参考にしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員がテーブルを囲んで、一緒にお茶を飲みながら談話したり、共有できる時間を確保し、生活を共にする大きな家族として良い関係が築けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーションや外出支援の参加時など、行事ごととしてユニット全体で捉えることをせず、今この時間にどう過ごしたいかという本人の思いを大切に、個別な支援に努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議とモニタリングを行い、利用者様の状況とケアのあり方について洗い出し、プラン作成に努めている。ご家族に担当者会議に参加していただける事が少ないが、面会の予定に合わせて会議を開くなどの工夫で担当者会議が開催しやすくなった。その際、状況報告とともにご要望やご意見を聞きしている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や職員の気づきを日々ケース記録に記録し、日々の申し送りにより情報の共有に努めている。共有シートに具体的な援助内容を記載し、実践に生かす努力をしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出、買い物、通院など、それぞれ必要な時に、本人やご家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、ご利用者様に合った資源が活用できるように支援している。また、馴染みの生活が継続できる様、地域や人との関係継続を支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との提携により、訪問診療時や急変時に利用者様の状態を正確に伝え、指示を仰いでいる。また、状態が不安定な場合は、訪問診療時にご家族に立ち会っていただき、主治医の説明を直接受けていただく。他科受診が必要な方の場合も、ネットワークサービスで病院間の連携をとり、情報共有している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には、管理者またはリーダーが病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きし、退院後のホームでの生活が安心して送れるよう、情報交換に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を説明し、利用者様やご家族にご理解頂けるよう、説明の時間を十分確保している。看取りを行う段階において、再度詳しい説明を行い、同意を頂いたうえで出来る限りの支援をしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者様の急変や事故発生に対し、些細なことでもヒヤリハットとして報告をし、意識向上を図っている。今後も応急手当の方法について勉強会を行い応急手当の実践力を身につけたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、職員会議で非常災害時を想定して役割を確認している。水害時の対策について、早急に避難訓練が必要である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人一人の人格を尊重し、職員が目線を合わせ声かけや関わりで穏やかに過ごして頂ける様心がけ、気配りできる様努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や居室で過ごされる時など、利用者様が思いを伝えやすい様な雰囲気づくりを心掛けています。起床、就寝時間や食事時間、飲み物の選択、衣類などあらゆる場面で自己決定して頂けるよう声かけをしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、利用者様本位での生活スタイルであるが、生活のメリハリをつける為に体操やレクリエーションの参加を体調を考慮し促している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から嗜好を把握し、献立作りに役立てている。また、野菜の収穫、食後の食器洗いや食器拭きなど、役割分担にて個々の力が発揮出来る様促している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握出来る様努めている。また、食事の摂取にかかる時間は、本人のペースを優先し、必要に応じて主治医に相談しながら調整している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいをして頂けるよう促している。必要に応じて口腔スポンジで介助させていただき、清潔保持に努めている。また、歯科医の往診で義歯の調整等の対応をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレの声かけをしている。尿意があまりみられない方でも、トイレ誘導により排泄を試している。実際に、リハビリパンツから布パンツに変更できたケースが多い。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や意思を確認し、入浴の促しをしている。リラックスして入浴頂けるよう好みの入浴剤を選んで使用している。曜日や時間帯においては、希望に沿って臨機応変に対応しているため、入浴回数が多い利用者もおられる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活スタイルに合わせ、起床、昼寝、就寝ができる様支援している。昼夜逆転がある方は、日中の活動の見直しを行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報ファイルをユニットに常備し、情報の共有に努めている。また、会議でもお薬の確認を行い職員一人一人がお薬について把握しケアに努めている。服薬に応じた状態の変化は必ず記録し、主治医へお伝えしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に合わせ、食器拭きや掃除など役割を持った支援をしている。「ありがとうございます」「助かります」と感謝の意をお伝えしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出支援の行き先には限りがあるが、日常的な散歩やテラスでのティータイム、ドライブや道の駅へ外出支援をしている。行先は利用者の希望で決定することが多い。また、野菜作りは、車いすの方も参加できるよう、プランターも使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、ご本人の希望や能力に応じて、買い物の時などに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話をされたいと申し出がある時は、職員がダイヤルし直接お話して頂いている。ご家族様からの手紙にお返事を書かれることは難しいが、喜んでおられた様子を電話や面会時にお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごされるリビングには、利用者様の作品を飾り、心地よい空間づくりに努めている。また、お天気の良い日はテラスでティータイムを楽しむなど工夫をしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の中で、利用者様の関わり合いなどに配慮し、席やソファの配置を考えている。ゆっくりとくつろげる空間づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や思い出の写真などを自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中で過ごして頂けるよう工夫している。また、ご本人の動線の妨げにならない様、家具の高さや配置に配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、利用者様の身体機能に合わせ、個々に合った車椅子やシルバーカーの選択をすることで、安心な生活が出来る様支援している。		